
愛のうた

愛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛のうた

【Nコード】

N5548E

【作者名】

愛

【あらすじ】

出逢い系サイトで知り合った彼にいつしか本気になり、もう彼なしでわ生きていけない…

プロローグ

第1章

《出逢い》

マサとの出逢いわメール。

今から約1年前：

親を亡くして、1人っ子の愛わ1人ぼっちになってしまった。

寂しくて生きる希望をなくして、死にたい毎日。

何のために生きているのか：

生きている意味がない。

寂しい…

寂しくて出会い系サイトを開いた。

自営業をしている4つ上の彼。

この彼とメールやりとりをし会う事になった。現れた彼わスーツに身を包み、貫禄のある少し怖い系の成金な雰囲気だった。それがマサ。

お酒を飲みながら会話も弾み、でも少し緊張もあった。

ちよつととつつきにくい感じがあったけど、でも話をしていて人の気持ち分かる優しい人だと感じた。

初対面だけど、愛わマサに自分の身の上話をした。

1人ぼつちで寂しくて、死にたい毎日なんだ…と、初対面なのに重く暗い話をマサにしちゃた。
マサわ愛の話を聞いてくれた。

その日わお酒を飲んで話をしてバイバイした。

愛わマサを気に入った。

マサも愛を気に入ってくれたみたいで、その後わトントン拍子にデートを重ね、メールも毎日やりとりし楽しかった。

愛わ恋をすると情熱的なタイプで、四六時中彼の事を考え、頭から離れず彼に依存しちゃうんだけど、まだこの時わそこまで全然なくて、好きとゆう気持ちでもなく、気に入っているってゆう程度だった。

マサわ毎日結構マメにメールをくれたし、マサと出会ってから寂しかった日々に少し光が差した様だった。

第2章 《告白》

初めて会った日から約2週間くらいたった頃、一緒に夜景を見に行った。

お盆前の暑い夏の日だった。

車の中おしゃべりしながら夜景を見た。

BGMわEXILE。

愛がEXILE好きだと言ったら、わざわざCDを買ってきてくれた。

とてもいいムード。

マサわ愛の方をみて、なんだか照れてる感じ。

見られている愛も照れちゃう。

マサ：

「なんか俺高校生みたいになってるなあ」

愛：

「ん〜？どうしてえ？」

何かを言いたそうだけど言わないマサ。

マサ：

「なんか俺デレデレだなあ」

そんな時間が30分くらい続いたかなあ。

マサ：

「…付き合おうか」

マサの言葉に愛わ即答で

「うん」と答えた。

そこで初めてのキス。寂しい毎日で死にたいだけだったけど、やっ
と幸せが来たかも。

マサ：

「俺と付き合ったら苦労すると思うし… 仕事が忙しいからメールもいれられなかったりすると思うけど大丈夫？」

「大丈夫だよ」って答えたけど、その時のマサの言葉の、苦労ってどうゆう意味なのかその時わ理解出来なかったけど、今になって理解できた。

その日わラブホにお泊まりした。

マサと初めてのエッチ。

今と、初めてした時のエッチわ愛のマサに対する気持ち全然違うから、最初わ、幸せで仕方ないとかそうゆう感じでわなかった。

愛わ人を好きになる時、外見とかだけじゃなくて中身から好きになるから… 時間がかかるんだ。

だからマサを本気で好きになるまで、それから1か月くらいかかった。

第3章 《本気》

毎日メールやりとりし、週に2、3回わ会えていた。

付き合ってから2週間くらいたった頃、地元の花火大会があった。

愛の家から花火が見えるから、お酒を飲みながら一緒に花火を見た。

ベランダに出て、マサが椅子に座っている上に座り抱っこしてもらって、かなりラブラブ状態。

親が亡くなって、愛わ家を売りに出していた。

ここから花火を見るのも今年が最後だろうと感傷に浸ったりもした。

愛わバツイチなんだけど、四年前わこの場所で旦那や子供と一緒にみた。

母親わ3年前に亡くなり、母親が亡くなってからわ父親と2人で暮らしていた。

去年とおとしわ父親と2人でこの場所から見た。

母親が亡くなる前から父親も病気だったし外に行けなかったから…。

花火を見ながら色々思い出して悲しくなった。

でも今わマサがいる。

マサ、来年もまた一緒に見れるよね？

来年の今頃わどうなっているのかな…

家族もいなく1人ぼっちの愛わ先の事を考えると不安でたまらなくなる。

またそれから2週間くらい過ぎた頃…

マサが出張で2泊で他県に行く事になった。

愛わ一緒に行きたいと言って一緒に連れて行ってもらった。

マサわ自営業で社長だから、そこらへんわ自由に出来る。

お泊まりだし愛わ軽く旅行気分でウキウキ。

何着ていこうかなあ？

…出張当日

台風ですごい雨。日頃の行い悪いのかなあ。
せっかくお出掛けなのに雨なんてガッカリ。

出張だからマサわスーツ姿。
カッコいいなあ。
みとれる愛。

初日わ夕方近くに出発したから、向こうに着いた時わすでに夜。
ビジネスホテルに泊まった。

マサの仕事わ夜だったから、明日の昼間わ時間があるから東京まで
足をのばし、お台場に行った。

でも台風で雨がすごくて一瞬外に出ただけでビタビタ。

だから外歩けずドライブ状態になちゃて。

海ホタル行ってきた。

昨日泊まったホテルわ狭くて普通のビジネスホテルだったが、今日泊まる事になったホテルわ、すごく豪華で部屋中ピンクの可愛いお部屋。

マサ：

「なんだか新婚旅行みたいだね」

明日になったらもう帰らなきゃならない。

帰りたくないなあ。

夜にわ雨わ小雨になっていた。寝て起きたらあつとゆう間に朝。

地元に向かう。

この出張についてきて、マサと2晩一緒に過ごしたらなんだかいつの間にかマサに対する気持ちが今までと変わって、今までの愛じゃなくなった。

バイバイした後、寂しくて寂しくて切なくなった。

今までこんな気持ちになつた事がなかった。

いつの間にかすごくマサにハマったみたい。

今までの愛と違う。

自分でも分かった。

出張から戻ってきて数日後、マサに会った。

時間がなくて短時間だった。

マサに抱きついて離れない愛。

マサを見つめてわ赤くなる。

マサ：

「なんか今日わいつもと違うけど、どうしたの？」

愛：

「どうしたんだろう」

自分でも分からないよ。

離れたくない。

でも仕事だから仕方ないよね。

またすぐ会えるよね。

でも次会えるまでの数日間がやたら長く感じて、寂しくて寂しくて死にたくなちゃって…

会いたくて仕方なくて夜中にマサにメールをした。

仕事で他県に行っているマサ。

マサ：

「もうビジネスホテルとっちゃたけど、今から行こうか？」

本当わ今すぐ会いたいし来てほしい。

でも疲れているのに悪いし、愛わ我慢して、大丈夫だからって答えた。

『今日仕事でこっち来る時、二人で一緒に聴いたEXILEを聴きながら来たけど聴き入ったらグツときたよ』
ってマサからのメール。

離れていても心わいつもそばにいるからねって言うてくれて、すごく嬉しかった。

その言葉だけでも頑張れると思った。

人を好きになる気持ちって不思議だよな。

誰の事でも簡単に好きになれるわけじゃないし、気がついたらどうしようもなくハマっちゃってて…

愛わすぐくマサにハマってる。

もうマサぢゃなきや絶対ダメだよ。

第4章

《予期せぬ出来事》

マサが恋しくて会いたくて想いが募ってやっと会えた時の嬉しさわ、はかりしれなかった。

このまま幸せが続くと思ってた。

でも想像もしない出来事が数日後起きた。

今まで毎日メールきていて、連絡こない日なんて1日もなかった。

なのに前日の夜中にオヤスメールが来て以来、次の日丸1日メールが来なかった。

連絡こない事なんて初めてだからすごく不安になった。

電話をしても出ない。

夜中になり、日付が変わってもメール来ず…電話しても留守電。

突然どうしたのかなあ…

愛、何か冷められるような事したかなあ。

いや、何もしてないし…

何かあった？

その夜わ不安と心配で眠れなかった。

次の日の朝、マサから電話がきた。

愛：

「どうしたの？何かあった？」

実わ…

会社でトラブルが起きて、大変な事態になっちゃって昨日連絡出来なかったって。従業員がミスをして大変な損害を被っちゃたらしく…

今日1日動いてみてどうなるかだから、また連絡するねって。

マサの会社わ今までとてもうまくいっていて、だからマサわお金持ちだった。

従業員にまかせて自分わ自由にしていた感じだったんだけど、これを機にそんな訳にわいなくなり、今まで頻繁に会えていた状況から一転し、なかなか会えない状況になちゃったんだ。

多額の損害賠償金を支払わなければなくなり、マサの会社わ莫大な借金をする事になった。

銀行や知り合いから借り、それでも足りなくてマサわ毎日金策に走ってた。

マサわ自分の彼女からお金を借りる事に抵抗を感じる人で、愛にわ貸してとわ言わなかった。

でも毎晩寝ないで金策に回っているマサを見ていられなくて、足りない分、愛が貸すからと言った。

でも断られた。

愛からわ借りれないって。

でもあともう少しが用意出来なくて、用意できなければ会社わ倒産になってしまうつて…。

この時、出会ってから約2か月後の出来事。

マサを信じてるけど、でも家も会社も分からないまま大金を貸すのわ怖かった。

逃げられたら終わりだから。

会社と家の場所を教えてくれれば貸すからと言った。

マサわ愛からわ借りたくないと言っていたけど、もう借りるアテがなかったみたいで、結局愛から借りた。

マサの会社と家を案内してもらったし、マサを信用して貸した。

マサわ借金を背負ってしまった事でかなり精神的にもかなりヤバい感じだったし、借用書なんて言ったらマサを信用してないみたいでマサを傷つける気がして言えなくて、愛わ借用書なしで貸した。

マサを信用しているから。

愛が貸してあげたから倒産わ免れる事が出来た。

でもこれからわ返済の為、今までみたくわしてられない。

マサも毎日ちゃんと仕事をしっかりしないとならないから今までみたく頻繁にわ会えなくなった。

マサと付き合い始めて、幸せが来たと思ったのも束の間で、この時から辛い日々が始まった。

第5章 《不安》

お金を貸してから約1か月後…

マサが出張先で風邪をひいたとメールが来た。

病院に行ってきたけど、まだ高熱があるから寝るねって夜にメール来たのが最後で、それから3日間連絡がとれなくなった。

いくらメールしても返事が来なく電話をしても出ない。

もしかして、逃げられた？愛わ騙された？

不安で死にそうになった。

連絡が来なくなり4日目…

いてもたってもいられなくてマサの会社に行ったが、マサの車わないし中に入る勇気もなく…

家わ前に教えてもらっていたけど、案内してもらったの夜だったし、なかなか分かりづらい場所だったから道が思い出せず、ただ闇雲に車を走らせた。

具合が悪いとゆうメールが最後だったから入院しているのかなとも考えたが、入院していてもメールくらい出来るだろうし、こんなに連絡ないなんてやはり愛わ騙されたのか…

もしマサが詐欺師だったら、出会ってから今までのマサの言葉やすべてが嘘になる。

そんな風にわ思えないし、そんな事わ考えたくもない。でも連絡がこない。

もしマサが詐欺師で、全然違うマサの姿を見たとしたら、ショックで愛わ生きていけない。

お金わどうでもいい。

マサが愛を騙していたのかそれが問題。

いくら電話をしても出なくて…

でも愛わ今までのマサとの時間が嘘だと思えなくて、マサを信じて連絡を待った。

連絡こなくなつてから4日目の夜…

マサからメールが来た。

『連絡出来なくてごめん。肺炎起こして入院してた』

連絡が来てとりあえずホッとしたけど、入院なんて嘘かもしれない。

話をしないと分からない。

その後電話がきて、マサとやっと話が出来た。

電話の声わいつもと変わらないマサの声。

本当に入院してるみたいな感じだった。

明日退院するから、明日会いに行くからって。

もし詐欺師だったらそのまま連絡なんて寄越さないはずだし、明日会いになんて来るわけない。

だからやっぱり信じていいのかな？

会って話をしないと分からないし、愛わ次の日を待った。

…次の日

今退院したからこれから行くからねってメールが来た。

メールきたから大丈夫ばい。

約束通り、マサわ会いにきた。

入院中携帯を車に置きっぱなしだったから連絡出来なかったと言う。

入院中の話も聞いた。

マサの言葉が嘘にわ思えないし、それに会いに来てくれたのだから信じようと思った。

信じられないのなら別れるしかない。

でも好きだから別れるなんて出来ない。

愛わマサを信じる事にした。

ずっと眠れなかったけど、とりあえず安心したから今夜わ眠れそう。

第6章 《X・mas》

それからわ週1回くらいのペースで会っていた。

1週間会えないのわ長くて辛い。

寂しくてしょつ中泣いてる。

マサと出会ってなければとっくに死んでいたと思う。

マサに出会ってマサを好きになって、生きる希望が持てたから、今まで生きてこれた。

でもマサに会えない夜わ寂しくて死んでしまいたくなる。

もう死にたいと言った。

マサわ、俺の為に生きてと言ってくれた。

俺が必要としているんだから死んでダメだよって。

返済が大変で昼も夜も働いてるマサ。

マサも頑張っているのだから、愛も寂しくても頑張らないといけな
いよね。

X・masイヴ・もしかしたら会えないかなと諦めていた。

でも会いに来てくれた。

2時間しか時間がなかったんだけど、仕事をぬけて高速をとばして…。

短時間でも来てくれた事にマサの愛を感じた。

ホントわお泊まりで会いたかったけど…。

贅沢言ったらいけないね。

会えただけでもよかった。

第7章 《危機》

年があけて新年早々、別れの危機が訪れた。

マサが仕事の付き合いの集まりで、年越しと一緒に過ごせなかったから、お正月からマサに不満をぶつけちゃんだ。

会えなかったのわ仕方ないとしても、メールくらいわマメに欲しかったのに来なかったから…

『正月も会えないなんて寂しい。

連絡も少ないし、愛の事わもうどうでもいいの？』

『愛の事、適当だよね』

マサから来た返事のメールの内容わ予想外なものだった。

『ごめん。今後について考える時間をください。

考えがまとまったら連絡するよ』

… なにこれ …

突然なに？

愛の事が嫌いになったの？

付き合い始めてからずっと、マサお愛の心の支えになってくれてきて、愛の側にずっといるよって言うてくれていたのに…

愛が俺を必要としてくれるなら俺はずっと離れないでいるよって言うてくれていたのに…

それから数日連絡がなくて…

メールをしても返ってこないし電話をしても出してくれない。

嫌われちゃたのかな…

食事も喉を通らない。

辛くて家になんていけない。

一人で海に行き、海を一晚中見てた。

マサが付き合おうって言うてくれた場所に行き、あの日の事を思い出す。

マサがいなくなったらもう生きていく希望もないし生きていたくない。

正月早々愛わ１人ぼっち。

毎日泣いて正月を過ごしてる。

なんでこんな目に合わなきゃならないのかな。

マサからわいつ連絡くるんだろう。

待ってる時間ってものすごく長い。

マサのあのメールから4日後、連絡がきた。

電話で話をした。

マサがあんなメールを入れてきたのわ、愛の幸せを考えると俺じゃなくて他の人の方がいいんじゃないかって…

俺わ愛にわ幸せになってほしいし愛の幸せを一番願ってるから。

返済の為仕事が忙しくなってから寂しくて辛い思いばかりさせているし、愛にああしてあげたい、こうしてあげたいって想いわあっても今の俺わ答えてあげられない…

惚れた女を泣かせるばかりで、迷惑かけて自分が情けない。

嫌いになったわけでもないし気持ちわ前と変わってないからと言ってきた。

気持ちわ変わっていない事を聞いてとりあえずわ安心したけど…

まだ答えわ出てないって言うマサ。

愛わ電話口で泣いた。

マサ：

「泣かれるの辛いから、電話するの嫌だった」

そんな事を言われても、涙が出て止まらないよ。

それから3日後：

答えが出たから会いに来るって。

その日わ偶然にもマサの誕生日だった。

愛わ別れる気なんてない。

あの電話から今日までの間愛わマサに自分の気持ちわメールで何度も伝えた。

『愛わマサじゃなきゃダメで、マサがいなかったら生きていけない。マサが愛の幸せを考えて別れを選ぶとゆうならそれわ違うから……』

愛わマサの誕生日プレゼントを買いに行った。

今夜別れる事になるか、どうなるか分からないけど、買った。

そして夜：

年が明けてから会っの初めて。

結論から言えば、マサわ別れた方がいいと言った。

今まで寂しくて会えないと愛わマサを責めてきた。

マサの状況がよく分かっているながら寂しさに耐えきれなくて自分の気持ちを押し付けちゃってた。

その繰り返しだと思っからって。

借金返済のメドもついてなくてこの状態ずっと続く。

愛わ別れたくないと言った。

だったら会社が落ちつくまで、時間を置こうかって言うマサ。

借金返済のメドもたっていないし、落ち着くなんていつになるか分からない話。

落ちついた時に二人の気持ちが今と変わらず同じだったらまだ戻れるってマサわ言う。

愛わ今ここで離れたら二度と戻れなくなると思った。

今マサを離したらもう終わりだと思った。

絶対離れたくない。

寂しくても我慢するし、マサが落ちつくまで付き合いながら待つから別れないで続けてと言った。

マサ：

「待たせるのわ気がひける」

愛：

「愛の事今も前と変わらず好きだと言ってくれたよね？」

愛の事好きなら愛の気持ち分かって」

マサ：

「うん、分かった。俺も好きだから本当わ別れたくないし、じゃあ二人で頑張っていこう。」

こうして別れないで続けていく事になった。

マサ：

「でも本当にそれでいいの？苦勞するよ…」

愛：

「マサが好きだから」

マサ：

「ありがとう」

仕事の合間に来たから、時間がなくもう帰る時間がきた。

愛：

「誕生日おめでとう」

プレゼントを渡した。

マサ：

「今日俺誕生日だっけ。」

仕事の事で頭がいっぱいで自分の誕生日も忘れてた」

プレゼントもらいずらいつて言ってなかなか受け取らない。

マサ女にお金を出してもらうとかプライドが許せなくてダメな人。

だけど借金返済の工面がどうしても出来なかった時に、最後の最後で愛からお金を借りた。

お金も借りてるし、こんな状態だったから受け取りずらい気持ちわ分かる。

誕生日が別れの日にならなくてよかった。

付き合い初めてから5か月。

マサの誕生日を境に、新たな出発を迎えた。

ブログ

出会い系で知り合った彼との辛い恋…

第8章

《出口の見えない暗闇》

それから今までよりも会えない日々が長くなった。

メールも2、3日来ない事がザラにあり、すごく寂しい。

でも寂しくても我慢すると決めだし、寂しいとか自分の気持ちを押し付ければまた同じ事の繰り返しになる。

だから何も言えない。

寂しいよ。

早く会いたいよ。

…マサの誕生日から3週間。

別れの危機になり別れ話をしたあの日から会ったの初めて。

マサが夜にも仕事が入っていて、その合間に来たから数時間しか時間がない。

会えない時間わものすごく長いのに、会っている時わあつとゆう間に時間が過ぎていく。

このまま時間が止まればいい。

マサの胸に顔をうずめ、マサの背中に手を回した。

マサも愛の背中に手を回し愛の髪を撫でる。

愛わ髪を撫でられてゾクツとした。

マサに髪を触られるだけで感じちゃう。

その目に見つめられると壊れそうになる…

抱き合ったままの二人。

マサ：

「もうそろそろ行かないと…」

愛：

「もう行っちゃうの」

マサ：

「また来るよ」

愛：

「またっていつ？」

マサ：

「また来週時間とって来るよ。寂しい思いばかりさせてゴメンね」

愛：

「…もうこのままマサの腕の中で死んでしまいたい」

マサ：

「愛、そんな事言わないで」

マサが帰った後わマサの余韻でいっぱいになる。

お風呂上がりにはマサが使ったバスタオルさえも愛しくて…顔をうつめる。

さっきまで一緒にいたベッドにマサの匂いが残ってる。

マサのぬくもりがまだ体に残ってる。

1人じゃ寂しくて眠れないよ…

毎日一緒にいたい。

マサと会える日わ朝から幸せで夜が待ち通しい。

でも約束をしていても急に来れなくなる事がしょっちゅうある。

約束の時間が近づいても連絡がなくて… 携帯の前でひたすら
連絡を待つ。

待ちくたびれた頃、平井堅の着うたが流れる。

マサからの電話の着信音。

マサ：

「愛、ごめん仕事はまだ終わらなくて今日行けそうにもなくなっちゃた」

愛：

「じゃあいつ会えるの？」

マサ：

「明日いくよ」

こんな風に、約束が仕事の都合で延び延びになる事がしょつ中。

会えてもほとんどいつも短時間だし、疲れてるマサに悪いからどこにも行けないし、いつも愛の部屋で会うだけ。

借金背負う前々普通に休日わデートし、飲みに行ったり色んなところ行ったりしたけど、今わそれが出来ない。

返済のメドがつくまでずっとこの状態が続く…

早く前みたいに帰りたいたいし、愛と早く一緒になりたいから1日も早く借金を片付けたいと言って、マサわ休みなしで昼夜働いている。

マサの辛さわよく分かる。

でも愛も寂しくて辛い。

出口の見えない暗闇にいるようで、いつになったら明かりを見れるのか。

マサを待ち続けて、報われる日々来るのか。

先の事を考えると不安でたまらない。

こんなに寂しくて辛い思いをするくらいなら死んだ方が楽……

死にたい。

でもマサに会ってマサの顔を見ると死ねない。

死んでしまったら、もうマサの顔も見れないしぬくもりを感じる事も出来なくなる。

そんなの嫌だよ。

でも寂しくておかしくなりそうだよ。

マサ、助けて。

別れの危機から約2か月後、愛の誕生日。

愛：

「誕生日、少しでもいいから顔を見せてほしいな」

マサ：

「愛の誕生日わ来るつもりでいるから大丈夫だよ」

いくら忙しくても、イベントわ必ず時間をとって会いにきてくれる。

マサ：

「プレゼント何かほしいものある？」

愛：

「マサの愛」

マサ：

「言つと思った（照）」

愛：

「ホントに何もいらないよ。マサが会いにきてくれればそれがプレゼントだよ。」

「誕生日わ抱いてほしいな。」

なかなか会えない日々が続く、会えても短時間が続いていて、最近抱いてもらっていないから…

マサのぬくもりが恋しいよ。

…誕生日の日。

約束通りマサわ会いに来てくれた。

プレゼントとケーキを持って来てくれた。

夜、仕事が入っているから朝までわ一緒にいれなかったけど会いに来てくれただけでとても幸せだよ。

来年の誕生日もこうして一緒にいれるかな。

マサ：

「愛、大好きだよ」

マサの優しい言葉に包まれて、抱かれた。

このまま時間を止めたい。

マサにお祝いしてもらえて最高の誕生日になった。

愛、28歳。

第10章

《温泉旅行》

マサわこの半年毎日休みなしで昼夜働いているから疲労もかなりたまっていて、体調を崩す事が多くなっている。

会える時間もいつも短時間だから、一緒にお出掛けや外デートもこの半年していない。

いつも愛の部屋で会うだけ。

でもどこにも行けなくても、マサに会えるだけで幸せだし一緒にいれれば場所なんてどこでもいい。

でもやっぱりたまにわ一緒にどこかに行きたい。

マサの疲れもとってあげたいし、癒してあげたい。

愛：

「泊まりで温泉でも行きたいね」

マサ：

「温泉いいなあ。」

愛：

「行こうよ。1泊くらい時間とれない？」

マサ：

「んーでも温泉行くにわ先立つものも必要だし、もう少し待って」

仕事の儲けわ全て返済にまわしてるし、余裕がないマサ。

愛：

「愛が出すから」

マサ：

「…愛のお金で行くのわちょっと…」

待っていたらいつ行けるか分からない。

マサわ体調も悪いし明日どうなるか分からない日々だから…

行ける時に行っておかないと二度と行けなくなる気がした。

マサの仕事のスケジュールを見て、行く日を決めた。

旅行日わ約2週間後。

待ち通しくて待ち通しくてたまらない。

早く行く日にならないかなあ。

でも仕事の都合でキャンセルになりわしないかなかなり心配だった。

そして案の定、5日前に…

マサ：

「もしかしたら行けなくなるかも」

愛：

「すごく楽しみにしてるのに…どうして？」

大きな仕事をもらったんだけど、その仕事をやるのに資金繰りがうまくいかないらしく…

うまくいけば行けるけど、ダメだったら行けないかもって…

マサわまた金策にまわった。

でもあと少しがまた足りなくて最後の最後に愛に頼んできた。

マサ：

「もう俺にわ愛しか頼る人がいなくて… こんな事ばかり言っ
て本当にごめん。自分が情けない」

土下座をして頭を下げて愛に頼むマサ。

自分がみじめでカッコ悪くて情けないって思ってるマサの気持ちが
ひしひしと伝わってきた。

好きな人が土下座をして頭を下げる姿なんて見たくない。

そんな姿見るの辛いよ。

愛：

「頭あげて…」

その日マサわ愛がX・masにプレゼントしたネクタイをつけてた。

なんだかすごく切ない。

マサを信用しているけど、でも全部を信じきれない部分があつて不
安が…

もしかしたら愛とわお金目的で付き合ってるかもしれない…

マサ：

「そうじゃないよ。愛の事好きだから、愛の将来の事を色々考えた
りしてるし、好きじゃなかったら考えないよ…」

確かにマサが愛の事を考えてくれているのわ、付き合ってからずっと感じてきた。

だから今までマサを信じてついてきた。

愛わお金を貸した。

マサ、信じてるからね…

資金繰りわ大丈夫になったから予定通り温泉に行ける事になった。

待ちに待ったその日。

お昼前にマサが迎えにきた。

行き先わ宮城県の松島海岸。

とてもいいお天気。

まだ3月だから寒いけど、二人でいればあったかい。

マサわ疲れてるし、だから宿に直行してゆっくりしようと思っていたけど、せっかく行くんだから見たい所決めておきなねってマサが言ってくれてたから、遊覧船に乗った。
せっかくだから2階のグリーン席に乗った。

マサと一緒に来れて最高に幸せ。

二人で写真をとった。

宿について、二人でのんびり。

予約した貸し切り風呂に一緒に入った。

脱衣場で一緒に服を脱ぐ。

愛：

「なんだか恥ずかしいな（赤面）」

マサ：

「今更なに言ってるの」 愛が入ろうって言ったくせに」（笑）

お部屋からもお風呂からわ海が全面に見渡せる宿で景色わ最高。

愛わ湯舟の中でマサにぴったりくっついた。

マサ：

「愛、大好きだよ。」

愛：

「愛もだよ。」

毎日の寂しさや不安も忘れられた。

寝るのがもつたなくて眠れない。

部屋から見える外の景色わ、木が緑色の光でライトアップされてい

て綺麗。

疲れがたまっているマサが先に眠っちゃた。

愛わマサの寝顔を見ながらマサにくっついて眠りについた。

…翌日わ雨。

マサ仕事があるから今日わもうどこも見ずに帰るだけ。

マサと一緒にいれる時間もあと数時間…

高速道路の標識が地元に近づく度、寂しさがこみ上げてくる。

帰りたくない。

でも今回の旅行わかなり良い思い出になった。

次また旅行に行けるのわいつかなあ。

思い出の写真を見て余韻に浸った。

第11章 《自己破産》

マサの体が日に日に弱っていく感じ。

具合が悪くなる事が多くなっている。

食中毒をおこし入院した時に、胃に穴があいているのが見つかった。

ストレスたまっているから穴もあくよね…

まだ若いのに髪の毛にわ白髪も混じっているし相当苦勞しているのが分かる。

マサわどんなに辛くても弱い所を見せない。

でもそんなマサが…

マサ：

「もう最近どうでもよくなってきた。

この生活がこれからも続くと思うと気が狂いそうになるし、これから先どうなるか不安でたまらない」

この8か月よく今まで頑張ってきたと思う。

ここまで頑張ってきたのでさえすごいよ。

愛だって不安でたまらない。

借金を片付けなきゃ一緒になれないって言うし、そんな事言ったらこのままでわ一生一緒になれないよ。

愛わいつまで待てばいいの？

寂しさも限界まできてるから…

このままじゃいられない。

前に、自己破産を勧めた事があった。

会社を潰す事だけわしたくないと言っていたマサ。

でも今わ肉体的にも精神的にも限界まで来ているから、考えも変わってきたみたいで…

だいぶ悩んだみたいだけど自己破産をする事を決めてくれた。

今の大きい仕事が終わったら倒産させるって。

そしたら一緒に暮らせる。

愛わ今まで寂しさに耐えて、ずっと待ってきた。

信じてお金も貸した。

もし愛を裏切るような事があれば許さない。

愛：

「一緒に住む約束もしやぶったら殺すから」

愛も限界まで来てるから普通の精神状態でわなく、こんな言葉を口にした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5548e/>

愛のうた

2011年1月20日03時44分発行